

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390500235		
法人名	医療法人 偕行会		
事業所名	認知症高齢者グループホームじょうさい 2丁目		
所在地	名古屋市東区北畑町4丁目1番地		
自己評価作成日	令和3年10月29日	評価結果市町村受理日	令和4年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosvoCd=2390500235-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和3年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内にある偕行会城西病院は、24時間往診可能な「在宅療養支援病院」であり、医療療養型の病院です。病院が隣接している為、健康状態の把握や緊急時の対応もできるので安心して入所生活を続けることができます。事業所内には睡眠リズムを把握する「眠りスキャン」を全室導入しており、夜間の転倒の危険性が高い方やトイレで起きた方の情報が職員に伝わりやすくなっています。利用者様の睡眠状況を把握することで、事故の軽減に繋がっています。スタッフは認知症ケアを専門とした資格(認知症ケア専門士、認知症実践者研修の受講修了者)を有する職員を配置しており、より専門性の高い認知症ケアを実践しています。また、看護職員を配置し、入居者の健康面の管理をし早期発見と対応に努めています。住みなれた地域の中で、今までのつながりを大切に、その人らしい生活が送れるよう『第二の生活の場』として安心して暮らせる様に支援しています。様々な行事も企画し、利用者様と関わる機会を多くしています。常に利用者様の事を職員間で話し合い、より良いサービスが提供できるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは小規模多機能事業所を併設していることで、事業所間で連携した支援が行われている。利用者の中には、小規模多機能で在宅での生活を継続し、様々な状況に合わせてグループホームへの移行が行われており、利用者の円滑な移行にもつながっている。関連の医療機関が同一敷地内にある利点も活かしながら、医療面での柔軟な対応が行われている。ホームには常勤の看護師が勤務する体制がつけられており、医療依存度の高い方もホームでの生活を継続する取り組みが行われている。また、建物内に訪問看護も開設されており、非常災害時に備えた備蓄品を訪問看護で確保する等、事業所間での連携した対応につながる取り組みが行われている。また、日常生活についても、様々なレクリエーションが行われており、利用者の生活が単調にならないような取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員の目に入る場所に掲示され、唱和し理念共有している。ただしながら、全てを実践に繋げられているわけではないため、努力は必要である。	運営法人の基本理念をホームの支援の基本に考えており、職員間で日常的に理念を唱和する取り組みが行われている。また、職員の名札の裏面に理念を記載する取り組みも行われており、日常的な意識向上も図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩や園芸等で近所の方に声をかけて頂いて交流をしている。関連事業を通じ相談の窓口もある。	現状の感染症問題が続いていることもあり、地域の方との様々な交流の取り組みが中止になる等の影響が出ている。また、例年は、ホーム建物内の交流スペースを地域の方の会合等に活用してもらう取り組みも行われている。	地域の方との交流が中断している状況が続いていることもあるため、今後の感染症の状況もみながら、交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を通して、事業所内の支援内容理解して頂ける様に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在は文書での対応となっている。	会議については、併設事業所とも連携しながら実施しているが、今年度は書面による実施が続いており、関係者への報告が行われている。例年は、地域の方の参加が得られており、情報交換が行われている。	書面による会議が続いている中で、管理者が交代し、職員体制が変更になっている状況でもあるため、今後に向けた会議の再開にも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	ケアマネージャーが地域包括支援センターと連携を取りながら協力体制を取っている。	市担当部署との情報交換については、併設事業所を通じても行われているが、ホームからも研修に参加する等の取り組みが行われている。また、地域包括支援センターとも情報交換等が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	勉強会の実施にて共有し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	医療依存度の高い方も生活が可能であるが、身体拘束を行わない方針で支援が行われており、現状、身体拘束が行われていない。また、身体拘束に関する現状確認を毎月実施しており、職員間への注意喚起や振り返り等につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	勉強会の実施にて共有している。 また、内出血などの事故については事故報告を上げ検証と防止策を講じている。 178		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	以前に成年後見制度を利用している利用者様があった為、今後の事も視野に入れ学び支援に努めたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関する説明等については、管理者やCMが連携して行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様・家族様の意見や要望はユニット会議等で情報を共有し話し合いを設けている。	現状、家族との交流が困難になっており、情報交換等の対応が行われている。家族からの要望等については、内容にも合わせて運営法人の役職者による対応も可能である。また、年4回の便りの作成が行われており、利用者毎の手紙の作成も行われている。	家族との交流が困難な状況が続いていることもあるため、今後の感染症の状況もみながら、可能な範囲で家族との交流が再開されることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会議をい、意見や提案ができる機会を設け反映させている。	毎月のユニット毎の職員会議や日常的な情報交換を行いながら、職員からの意見等を運営法人に報告し、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、管理者による職員面談を実施し、一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人面談を行い、仕事への目標や意欲等を確認しやりがいを育てるように環境整備を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	事業所内で研修計画を策定し、実施している。又、職員個々の実力から発生する問題点を事業所内の共通課題としてとらえ、臨時で研修等を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	法人内での勉強会を利用して交流を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	新しい環境下での緊張や不安が少しでも和らぐように声掛け、情報収集を意識している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所相談の段階から入所後も要望等の聞き取りを丁寧に行い、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所相談時から現状での可能性や使用できるサービスやその違い等、共に検討するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	介護という目線ではなく、「生活の場」に職員と一緒にいらして頂き暮らしていくという意識での関係構築をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	協力して本人を支えていける様に、相談をしながら共に進める支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍での対応ではあるが、関係性の継続ができるようにオンライン面会などで支援に努めている。	現状、外部の方との交流が困難な状況が続いているが、利用者の中には、感染症対策のお願いも行いながら、行きつけの場所に出かけている方もいる。また、身内の方の法事に出かける等、可能な範囲で外出が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者間に仲介し、互いの事を知ってもらい関係性が作れるように写真の掲示などきっかけ作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	長期的にかかわらせてもらう事は難しいが、相談できる場として待っている事を伝えるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ユニット会議や日々の生活の中で、検討ができる機会を設けプランへ反映させている。	利用者毎の手紙の作成や職員間での日常的に情報交換を行いながら、利用者の意向等の把握が行われている。また、毎月のカンファレンスを実施しており、利用者や家族の意向等の検討を行い、日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所相談時から把握に努めている。入所後も家族とのコミュニケーションで情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	担当者が中心になりながら、ユニットで観察・把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族はもちろんのこと、訪問診察チームとも話し合い、会議等で検討して反映させている。	介護計画については、3か月での見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。利用者一人ひとりに合わせた記録用紙を用意しており、日常的に変化等の把握を行い、3か月でのモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	カルテ記載はまだ十分とは言えないが、職員への指導をしながら進めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	個々の現状把握を関係する人と共有し、柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	顔の見える関係作りから地域資源の活用ができるよう努めたいと考えているが、コロナの影響で行えていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	家族の希望を尊重し、受診等をして頂いている。また往診においても連携を取り、状況に応じて対応をしている。	運営法人の関連の医療機関が同一敷地内に開設されていることで、医療面での柔軟な支援にもつながっている。受診については、家族による対応を基本としている。また、ホームに常勤の看護師が勤務しており、医療面での支援につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	常勤看護職と朝の申し送りの場面を活用したり、変化への気づきがあった時に相談を行い、対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と利用者に関する情報のやり取りを行い、方向性の確認やベッド調整などを相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	利用者に重度化や終末期等の兆しが見られ多段階から、家族はもちろんのこと、訪問診察チームとも話し合いの場を設ける、又は情報共有を働きかけている。	身体状態が重い方もホームでの生活を継続しており、医療面での支援も行いながら、利用者の中にはホームで最期を迎えた方もいる。利用者の段階に合わせた家族との話し合いを重ね、意向等に合わせた支援につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時にはマニュアルの指示に従って実施できるよう勉強会を開催し実践力を付けられるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	事業所内での避難訓練などはおこなえているが、地域との協力体制については課題である。	年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。避難訓練を併設事業所と合同で実施しており、事業所間で連携した対応が行われている。また、関連の訪問看護に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	地域の方との交流が困難になっていることで、災害に関する協力関係についても困難になっているため、今後の状況もみながら、地域の方との協力関係につながることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシーや人格を尊重し、人生の先輩として配慮しながら対応するよう努めている。	運営法人の理念の他にも、職員の行動基準もつくられており、職員による利用者への対応や言葉遣い等につなげる取り組みが行われている。また、職員の接遇につながる研修を実施し、職員の振り返りにつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	介護者目線ではなく本人の思いを大切に、会話等の中で表出・自己決定できるように働きかけるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	集団生活ではあるが、食事や臥床時間等、都度希望に沿って支援するように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時や入浴の準備など、折に触れて声掛け等の支援を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の気持ちや能力を見極めながら、参加できる様に支援している	食事については、おかず類は外部業者から調達し、ホームのキッチンで温めて提供しており、利用者の身体状態に合わせた食事形態の対応も行われている。ホームで食事作りやおやつ作りの機会もつくり、利用者の楽しみにつなげる取り組みも行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	摂取量・嗜好等に基づいて、検討しながら工夫するように努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを実施して口腔状態を確認している。また、訪問歯科への相談・勉強会の参加をして知識・技術の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	入所からの経過年数で介護を必要とする割合は高くなってきてはいる。ただし、少しでも維持・向上できるように排泄に関する研修等を検討中	利用者毎に排泄チェックを行い、日常的にも情報交換を行いながら、一人ひとりに合わせた排泄支援につなげる取り組みが行われている。トイレでの排泄を基本に、医療面での支援も行いながら、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事や水分の摂取量や活動量の検討は行っているが、内服薬での調整に至っているケースは多い。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	現在は曜日や時間帯を固定して実施している。但し、本人の希望による曜日の変更や時間帯の中での希望などには柔軟に対応している。	利用者が週2回(火曜日、金曜日)に入浴しているが、他の曜日での入浴も可能である。特殊浴槽が設置されており、利用者の身体状態に合わせた入浴支援も行われている。また、炭酸泉による足湯等も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	眠りSCANを活用して入眠状況を確認し、午睡の提供等を状況に応じて提供している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	特に眠剤や下剤等が処方された場合は、更に注意して観察している。その他の薬についても、心身の状況から関連性を考慮し検討するようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	役割や楽しみの準備はしているものの、個々に目線に向けた支援には更なる努力が必要		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	現在はコロナ禍という事もあり、積極的な外出は控えている。ただしながら、外の空気を感じられるようなレクリエーション等を企画している	感染症問題が続いていることで利用者の外出が困難になっているが、ホーム前の駐車場が広いことで、利用者の散歩の機会にもつながっている。また、関連事業所の自動車を活用した外出も行われており、季節に合わせた外出にもつながっている。	ホームでは、職員間での検討を行いながら、現状で可能な外出が行われているが、今後の感染症の状況もみながら、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	法人として金銭の持ち込みは遠慮していた だいており、必要に応じて家族様をお願いし ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている。	自らではないが、希望があれば柔軟に対応 できるようにしている。また、家族からの要 望があった場合も柔軟に対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴 室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をま ねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がな いように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、 居心地よく過ごせるような工夫をしている。	生活空間として快適に過ごせるように清潔・ 温度・湿度等の管理に気を配っている。ま た、季節の創作物や写真などで生活空間の 工夫をしている	ホーム内は広めの空間が確保されており、利 用者が毎日の生活の中で閉塞感を感じない ような生活環境がつけられている。また、リビ ングの壁面には、季節感のある飾り付けや 利用者の作品等の掲示が行われており、アッ トホームな雰囲気づくりにつなげている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている。	TVの設置、食堂席やソファなど思い思い の場所で過ごして頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、 本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る。	家族との相談にもよるが、タンスやTV、写真 などを持参して頂き居心地の良い空間にな るように努めている	居室には、利用者や家族の意向等にも合わ せた好みの物等の持ち込みが行われてお り、一人ひとりに合わせた居室づくりが行わ れている。また、居室にカーペットが敷いてあ ることで、利用者の身体状態にも合わせた ベッド以外での対応も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかるこ と」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している。	トイレや居室などわかるように張り紙をする 等して、動きやすい生活空間の提供をして いる		